1. 令和3年7月～9月期の景気動向

今期のDI平均値は△33．2ポイント。卸売業では24ポイント、小売業では16ポイント、建設業では7ポイント下がった。サービス業は3ポイント、製造業は4ポイント上がったが、前期の4～6月の△27．2ポイントから6ポイント下がり、各業種厳しい現状が続いている。

業種／項目	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月	7～9月	10～12月
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高	△ 41 (△ 44)	△ 40 (△ 50)	△ 7 (△ 10)	△ 24 (△ 11)	△ 10 (△ 1)	△ 32 (△ 11)	△ 65 (△ 31)	△ 61 (△ 36)	△ 11 (△ 34)	△ 33 (△ 38)
採算	△ 41 (△ 26)	△ 47 (△ 32)	△ 19 (△ 20)	△ 26 (△ 30)	△ 11 (△ 32)	△ 22 (1)	△ 52 (△ 42)	△ 50 (△ 27)	△ 23 (△ 39)	△ 33 (△ 38)
資金繰り	△ 6 (△ 5)	△ 7 (△ 19)	△ 5 (△ 18)	△ 13 (△ 5)	△ 11 (△ 22)	△ 44 (△ 33)	△ 44 (△ 32)	△ 46 (△ 32)	△ 28 (△ 22)	△ 32 (△ 22)
業況	△ 33 (△ 26)	△ 40 (△ 41)	△ 8 (△ 12)	△ 23 (△ 14)	△ 45 (△ 21)	△ 45 (△ 21)	△ 54 (△ 38)	△ 42 (△ 23)	△ 26 (△ 39)	△ 31 (△ 41)
経営上の当面する問題点 1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
経営上の当面する問題点 2位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		販売単価の低下		消費者ニーズの変化への対応		人件費の増加	
経営上の当面する問題点 3位	材料価格の上昇		製品ニーズの変化への対応		メーカーの進出による競争の激化		購買力の他地域への流出		材料等仕入単価の上昇	
業種別コメント	依然としてウッドショックの影響による木材価格の高騰が止まらず、採算面で6ポイントマイナス。民間需要の停滞につながっているほか、新潟県の公共事業予算も減少傾向にあり、全体的に官公需要も停滞しているため、業況の来期見通しは7ポイントマイナスとなっている。 今後も原材料価格の高騰は続くとみられ、利益確保が課題である。		新型コロナ禍におけるアウトドア関連需要などの好調により、前期と比較すると全項目ともに回復が見られた。 しかし、建設業と同様に原材料価格が上昇してきており、価格転嫁を徐々に進めていかなければならないことから来期見通しは15ポイントマイナスとなっている。		取引先企業の業績悪化に伴い、関連業種の業況も悪化している。巣ごもり需要に関連して、一部好調な業種も見られたが、業況はマイナス24ポイント。来期見通しについてもほぼ横ばいとなっている。		生活必需品に関連する業種の業況はほぼ横ばいとなっているが、その他の業種については業況が悪化しており、全体で16ポイントのマイナスとなった。来期見通しについてもほぼ横ばいとなっている。今後は新型コロナ感染者数が減少傾向にあることやプレミアム商品券発行事業による需要の回復に期待したい。		9月に入り、県内の新型コロナウイルス感染者数は減少傾向にあるが、飲食店へ営業時間短縮の要請などもあり依然として厳しい状況が続いている。 来期は年末の忘年会シーズンを迎えることから、集客に向けた宣伝広告を行い、売上回復に期待したい。	



とくに好調 (50≦DI)　好調 (25≦DI<50)　まあまあ (0≦DI<25)　不振 (△25≦DI<0)　きわめて不振 (DI<△25)

※当所では分析にあたってD･I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※(　)は前回調査時のD･I値